

日本共産党

尾村としなり

# 毎議会質問に立って 住民の願い実現に全力



## 子どもの学ぶ環境を充実せよ

養護学校や小中学校の特別支援学級では、多くの臨時講師が任用されています。尾村県議は、任用が1年の定数内講師の比率が高い現場での「継続した教育ができにくい」との声を紹介し、正規採用増を要求。

教育長は「来年度、30人程度増員して正規採用の教職員の確保に努めたい」と答弁しました。

## 差額ベッド料の徴収改善へ

厚労省通知では、治療の必要上、個室に入る場合は「差額ベッド料を徴収してはならない」としていますが、県立中央病院では、この通知に反した不適切な徴収が多発していました。尾村県議の追及に、病院局長は「差額ベッド徴収における運用マニュアルを作成する」と答弁しました。

## 中海・宍道湖の漁業再生を

中海の森山堤防が60m開削されました。尾村県議は、漁業者や住民の願いは、森山堤防と大海崎堤防を大幅に開削することだと指摘した上で、「潮流が復活し、漁業関係者の期待は膨らんでいる」と抜本的な対策を要求しました。農林水産部長は「水産振興に努める」と答弁しました。



## 斐伊川水道建設事業

### ズサンな水量予測！ 高い水道料許さない！

尾村県議は、再三にわたって、人口予測と給水量の予測が過大であることを指摘してきました。県議会では、尾村県議の追及に対し、県はこれまで松江市の参画水量2万8千トンのうち、人口増による需要増として、1万5千トンとしてきた積算根拠を「ゼロ」と答弁。ズサンな水量予測が明白となりました。

本事業は、誤った需要予測に基づいてすすめられており、県の責任は免れません。大幅な水道料の値上げは絶対に容認できません。



(尾原ダム受水問題を取り上げる一般紙 10/22 付)

## 国民健康保険

### 生存権奪う差押え頻発 保険証取り上げやめよ

松江市では、国保証を取り上げられた世帯が、本年6月1日時点で600世帯にも上り、平成20年度、国保料未納者への滞納処分として、預貯金、不動産、生命保険、給料など209世帯に対し、6千500万円もの差押えを行っています。

尾村県議は「無慈悲な保険証の取り上げ、生存権を奪う差押えは中止すべき。とりわけ、新型インフルエンザ発生時の緊急措置として、緊急に保険証を発行せよ」と迫りました。

## 福祉医療費助成制度

### 「食事を1食に」悲鳴 1割負担撤回を

尾村県議は、障害者団体から福祉医療の1割負担によって、「負担が増え、病院に行くのを我慢している」「食事を1日1回にして欲しい」と病院窓口でお願いした「早く元の定額負担に戻してほしい」という声が出されると1割負担の撤回を迫りました。

溝口善兵衛知事は「国においても、障害者自立支援法廃止など障害者福祉の見直しの方向であり、動向を見ながら検討していきたい」と答弁しました。

## 斐伊川水道建設事業とは

雲南市木次町の「尾原ダム」を水源に松江市、出雲市（旧平田市）、雲南市（旧加茂町）、東出雲町の3市1町の参画により、最大日量35,400トンの水道用水を供給する事業。事業主体は島根県企業局。

県は人口増による水需要は「ゼロ」と答弁（上記）。一般紙も「斐伊川水道事業 見通しに甘さ」と報じました。

平成23年度から供給開始で、松江市の参画水量は、全体の8割に当たる28,100トン。今でさえ高い松江市の水道料がさらに高騰すると懸念されています。